オリンピックスポーツ文化研究
2020. 6　No. 5　249 ― 253

研究報告
（研究プロジェクト）

メダリストへの軌跡
―近賀ゆかり―

近　賀　ゆかり

【経歴】

2000 年 4 月　湘南学院高等学校入学
2003 年 4 月　日本体育大学体育学部体育学科入学
2003-10 年　なでしこリーグ　日テレベレーザ入団
2007 年 3 月　日本体育大学体育学部体育学科卒業
2011-13 年　NAC 神戸レオネッサ
2014 年　Arsenal Womens Football Club（イングランド）
2015-16 年　INAC 神戸レオネッサ
2016-17 年　Canberra United Football Club（オーストラリア）
2017 年　浙江省杭州女子蹴球倶楽部（中国）
2017-2018 年　Melbourne City Football Club（オーストラリア）
2018 年　浙江省杭州女子蹴球倶楽部（中国）
2018-19 年　Melbourne City Football Club（オーストラリア）
2019 年　オルカ鴨川 FC

【競技歴】

2005-16 年　代表キャップ数（日本代表出場試合）　100 試合 5 得点　ゴール数　5 ゴール
1999 年　U-15 日本代表
2000-01 年　アディダスカップ　U-18 日本代表
2002 年　U-19 世界選手権大会 ベスト 8　U-19 日本代表
2002 年 12 月　日本女子代表合宿初招集
2003 年　ユニバーシアード（韓国大会）銀メダル
2004 年　（アテネオリンピック バックアップメンバー / 招集無し）
2005 年 3 月　日本女子代表初キャップ（デビュー）
2005 年　ユニバーシアード（トルコ大会）銅メダル
2007 年　第 5 回 FIFA 女子ワールドカップ出場
2008 年　北京オリンピック 4 位
　　東アジア女子サッカー選手権 2008 優勝
2010 年　第 16 回アジア競技大会（中国）優勝
　　東アジア女子サッカー選手権 2010 優勝

2012 年　　ロンドンオリンピック銀メダル
2015 年　　第 7 回 FIFA 女子ワールドカップ準優勝

1．競技との出会い

私は兄がサッカーをしていた影響と周りに男の子の友達が多かったこともあり，小学 3 年生の時に小学校のサッカークラブに入部することを決めた．ただ，この時“男子はサッカー”“女子はバスケット”という流れがあり一度バスケットの方に入部届けを出したが，気持ちはサッカーにしかなかったのでバスケットの練習には一度も行くことなく，すぐに入部届けを取り下げてもらい自分の素直な気持ちのままに“サッカー”をやる決断をした．この決断が無ければ今の自分はないだろう．

中学に上がる時，女子サッカーチームが近所になかったのでサッカーをやめるか，試合には出られないが中学校のサッカー部に入部するか迷っていた．（この時私は試合に出られないのではつまらないと思う気持ちが強かったことを覚えている）そんな時，別の小学校のコーチから隣の市にある横須賀のチームを紹介してもらいサッカーを続けられる道が繋がった．このチームは全国大会にも出場していて中学生年代では強いクラブチームだったのですぐに行くことを決めた．そして高校は湘南学院高等学校に入学し，全国大会準優勝 2 回という成績を残した．高校卒業後は大学サッカーあるいはなでしこリーグに進むかの選択肢があった．この頃，年代別の日本代表に呼ばれていたので日本のトップリーグのなでしこリーグに所属している選手たちと関わるようになり自分もそこへ挑戦したい気持ちが強まり，リーグ最多優勝数を持つ日テレベレーザに入団することに決断した．

2．日体大での思い出（選手生活の思い出）

高校卒業後，日テレベレーザに入団と同時に競技力向上・将来の道を広げる為にと考え日体大へ入学した．ここで私は今まで出会うことのなかった様々な人たちに出会い，人生の中でも大きな経験となって残っている．今までサッカーの仲間ばかりだったが体操・水泳・陸上・レスリングなど他競技の人たちと関わる機会となり，サッカーというものを「スポーツ」という枠で考えられるようになった．

ある日，水泳の授業が始まると世界水泳に行く前の北島康介さんが私たちの前で挨拶をしてくれた．その他にも様々な所でスポーツ界のトップの方と接する機会があり私にとって凄く刺激的な日々を送ることが出来た．部活に入っていた学生とは違い，授業が終わると練習場があるよみうりランドへ移動し，練習を行い，家に着くころには大体 23 時ぐらいになっていた．当時の仲間たちが部活の後にご飯を食べに行ったり，飲みに行ったりしているのを羨ましく思うこともあったが，日本の中でもトップクラスの選手が集まる中での練習はそんなことより何倍も魅力があり，何より毎日楽しかった．ただ，学校で他競技の仲間から聞く話や授業で学ぶことは間違いなくサッカーに繋がっていて，時にはサッカーから離れる良いリフレッシュの場にもなり私にとって凄くいい環境であった．

そして日体大へ進学した理由の１つに教員免許を取得するという目標があった．将来，指導者への道も考える中で教員免許を持つことは自分にとってプラスになると考えていた．母校で教育実習をさせて頂き指導する難しさを知り，伝える技術というものを知る事が出来た．全く同じ課題について説明しても指導教員の先生と私とでは生徒の理解するスピードや理解の仕方が天と地の差があった．１つの物事を伝えるのに，言葉選び・伝え方に工夫が必要とされ簡潔に分かりやすく伝える事で生徒の食いつき方にも大きく影響すること

を学ぶことが出来た．この後，大学やサッカーの場でも指導を受ける時にそれまでとは異なる角度から話を聞くことが出来るようになった．この実習で子供達の可能性や変化，そしてそこに関わる教師・学校の役割の重要性などを学び教員免許取得は指導者へのプラス材料なんてものではなく人として，スポーツ選手として，そして時に指導する立場となってきた身としてこの経験が本当に大きく幅を広げることに繋がった．この時期はシーズンの真っ只中だったので，朝早くから教育実習を行い終了次第すぐに練習に2時間半かけて向かい少し遅れて練習に合流するという凄くハードな日々になっていたが，プレー面では調子が良く週末の試合でも結果を出す事が出来ていたので両立する難しさはありながらもメンタル的な充実からプレーにも良い影響が出ていたことには自分でも驚いた．

3．オリンピックでのメダル獲得

初めて出場した北京オリンピックでは，準決勝で負け4位となりメダルを逃した．この時，女子サッカー史上最高順位ではあったがここで一番強く感じたのはメダルへの距離であった．最もメダルに近い場所まで行ったものの，近くにあった感覚はなく，そこに辿り着くには何十歩も何百歩も進まなくては手に入らないのではないかと思わされた．この大会で，今までチームを引き上げてくれていた多くの先輩方が代表引退となり，自分たちの世代がチームを引っ張る立場へとなった．1999～2002年頃の女子サッカーの衰退期．バブル経済が完全に崩壊し，これまで女子サッカーをバックアップしてきた企業やスポンサーもそれまで通り資金を投じることが出来なくなりいくつものチームがリーグから撤退していった．同時に，2000年のシドニーオリンピック出場権も逃してしまい，厳しい状況に拍車をかけることに繋がった．

そして再起をかけたアテネオリンピック．アジア予選準決勝北朝鮮との決戦では国立競技場に3万人を超える観客が集まる中3－0で勝利し，2大会ぶりのオリンピック出場権を獲得した．私も会場で観戦した一人であった．当時，日テレベレーザに所属していたので澤穂希さんをはじめチームメイトやリーグではライバルとして戦っている選手たちがその舞台に立っていた．女子サッカーの未来を背負う重圧・気迫・責任すべてをかけて戦う姿は今でも記憶に濃く残っている．このような経験をしてきた先輩方の姿は次の世代の私たちに大きな財産として受け継がれ，北京オリンピック4位・ロンドンオリンピックでのメダル獲得に繋がっていたと私は思う．北京オリンピック終了後，世界トップを目指すチーム作りが始まった．ただ，北京で感じた世界のトップとの距離を考えると世界一になる姿は想像もつかぬままに強豪国に勝つにはどうするかだけをひたすらみんなで考えトライしていった．今ほど多くない限られた合宿や遠征期間にトライアンドエラーを繰り返し，〝なでしこジャパン〟というスタイルを見つけだし世界の強豪国とも少しずつ戦えるようになってきていた．

東日本大震災から約3ヶ月後の2011年6月，FIFA女子ワールドカップドイツ大会が開催され，日本では災害の大きな影響を受ける中，私たちはサッカーで日本を元気にしようと大会に望んだ．チームは数年かけて積み上げてきたチームワークや先輩方の意志，そして震災からの復興への思いなど様々なことが重なり，自分たちでも想像していなかった世界一になることが出来た．これによって多くの方に〝なでしこジャパン〟を知ってもらい応援していただけるようになり，これまでには想像もつかないような大きな環境の変化となった．その翌年迎えたロンドンオリンピック．今までにはなかった周りからの期待と他国からのマーク．日本ではメダル獲得は当然と期待され，他国のチームからは日本がどんなサッカーをしてくるか分析されていた．これは今までになかったことだったのでプレッシャーにはなったものの，

良いか悪いかはわからないが自分たちは世界一になった実感をあまり持っていなかった．だが，また世界のトップに行きたいという気持ちは強く，そしてオリンピックでの活躍が日本でどれだけの影響力がありメダル獲得が女子サッカーにおいてどんな意味を持つかを背負って戦う大会となった．ワールドカップとオリンピックでは雰囲気が全然違う．オリンピックでは日本チームという意識もあり，準決勝から選手村に入り他競技の選手と接する機会が増えた．そこでメダルを獲得した人がいるとみんなでお祝いするような光景があったり，実際にメダルを見せてもらったりしているうちにメダルへの思いは強くなるばかりだった．苦しみながらも決勝に進み，前年のワールドカップ決勝と同じアメリカと対戦することになった．アメリカは前年の悔しさが対戦する前から伝わってきた．試合内容は今まで対戦したアメリカ戦の中で一番良いものであったと私は思っている．だが，内容と結果は別物である．1–2 で負けてしまい銀メダル獲得となった．オリンピック銀メダル獲得は格別に嬉しいものだった．ただもう一つ輝いているメダルを取りたかった気持ちも同時に強く残っている．この決勝戦では 8 万人を超える観客数を記録した．あの雰囲気の中で大好きなサッカーを聖地ロンドン ウェンブリースタジアムでプレー出来たことは私の大きな大きな財産となっている．

4．その後の人生

ロンドンオリンピックで銀メダルを獲得した後，2015 年 FIFA 女子ワールドカップカナダ大会で 2 大会連続の決勝進出も再びアメリカの壁を崩すことが出来ず準優勝となったが，約 8 年近く世界のトップで結果を出すことが出来ていた．それから数ヶ月後に行われたリオオリンピックアジア予選．日本開催でのアジア予選となり，ここ数年の結果を見ればアジアでは勝って当たり前，そしてリオでの金メダル獲得への期待感は大きなのもであった．しかしアジアでの戦いは世界での戦いとは別物といってもよいかもしれない．独特な雰囲気やサッカースタイルなど世界大会ではないやりづらさのようなものがある．そして結果は 2 枠の出場権を獲得することが出来ず，金メダルどころかリオオリンピック出場を逃した．これによって数年築いてきたなでしこジャパン（女子サッカー）への関心は減少してしまった．やはり日本という国での〝オリンピック〟という存在の大きさに改めて気付かされることになった．これ以降，代表チームは監督交代や多くの選手の入れ替わりなど大きく変化し，私自身もメンバー招集されることはなくなった．そこで自分の中でサッカーに対する考え方・向き合い方が今までとは少し変わっていった．これまでは，まず代表活動を第一に考えて進む先を決めてきた．世界で戦える選手になる為にどこでどんなチームでどうすればいいかを考え決断していた．だが，この敗戦後は〝様々なサッカーを知りたい〟〝サッカーを楽しみたい〟と思う気持ちが強くなっていた．そんな中オーストラリアリーグに行くチャンスがきたのでチャレンジすることにした．

その後中国リーグにも行き，1 年で 2 ヶ国でプレーする日本では珍しいスタイルとなったことで「オフシーズン無く 1 年中ずっとプレーしているなんて大変だね」とよく言われるが，サッカーをずっと出来るなんて逆に幸せだと私は感じている．もちろん週 1 のオフやショートブレイクのような連休がある時はしっかり休んでリフレッシュしている．（今年は日本に帰ってきてプレーしているが，日本では 2 月～ 12 月までのシーズンなので本来 2 つのリーグを掛け持つことはあまり出来ないのだがクラブの理解もありリーグ戦終了後オーストラリアでプレーすることになっていて，またこのスタイルが継続出来るので様々なサッカーを経験する事が出来て充実した日々を送れている．）

５．後輩に一言

私はずっと夢のない，夢が見つからない子供でした．ただ大好きなサッカーをずっとずっと楽しみながら頑張ってきた中で，ワールドカップ優勝・オリンピック銀メダルを獲る事が出来ました．ここに行くまでには良い経験も悔しい経験もたくさんしました．この経験の中で“自分の強み・弱みを知ること”の大切さを感じました．強み（ストロングポイント）は自分の特徴として最大限に磨き，弱み（ウィークポイント）はどれだけ消せるかだと考えています．私は今も夢は何か？と聞かれると少し困ります．ただサッカーを通してたくさんの人に出会いそこから学んでいる事が多くあり，これはサッカーだけでなく人生においても私の強みとなり特徴となっています．そして苦手な事に対しての取り組み方も多く学びました．弱みに対して目をつぶり取り組まなければ進歩することは出来ません．「まずやってみる」というのが私が学んだ事の一つにあります．

私は数年前ある選択を迫られた時がありました．私の中で選択肢の３つのうち１つは絶対にありえないと思うものがありました．しかしその時，ある人に「絶対にないと思っているからこそ，そこに飛び込んでみたら？」と言われた時に私はハッとさせられ私は自分の目で見てない・経験していない事に対して目を背けていただけだと気付きました．そして私はあり得ないと決め付けていた選択肢の１つに飛び込む決断をした結果，様々なことをここで経験する事が出来て私の幅を大きく広げるものになりました．

夢は何か．目指すものは何か．これを考えることはもちろん大事だと思います．ただ目指し方や向き合い方次第で自分では想像もしていないような世界を観ることは誰にでも無限大に広がっていると思うので，何かとぶつかった時や迷った時などは「まずやってみる」ことで未来は広がっていると私は自分の経験から伝えたいと思います．